

第79回 奥多摩溪谷駅伝競走大会イベントレポート

【出場結果】

実施日 : 12月3日(日) 6区間 44.8km

コース : 青梅市役所～東京都奥多摩駅前折り返し

リザルト : 総合成績 2/108位 2時間19分46秒

1区 平塚 祐三 22分47秒 (2/108位)

2区 土屋 天地 26分02秒 (2/108位)

3区 松本 流星 21分52秒 (4/108位)

4区 松谷 公靖 20分39秒 (2/108位)

5区 小原 大輔 26分38秒 (2/108位)

6区 渡辺 瑠偉 21分48秒 (2/108位)



1区 平塚選手

師走としては暖かく、風も無い状態で駅伝を走るのには最適なコンディションの中、第79回を数える奥多摩溪谷駅伝がスタートしました。

レースは、今回も1区を務めた平塚が区間賞とはなりませんでしたが、一般の部のトップに26秒差の2位と、優勝候補のコメディイタに8秒差をつける走りで2区 土屋にタスキをつなぎました。

好位置でタスキを受けた土屋は、自信みなぎる走りで後続のコメディイタとの差を30秒とし、区間2位の走りで一般の部トップで3区の松本へタスキを渡しました。



1区 平塚選手⇒2区 土屋選手



3区 松本選手

今回、登り勾配のきつくなる3区に登りの得意な松本を配置して逃げ切る作戦でしたが、数週間前に体調を崩した影響もあり、本来の躍動感のある走りは見られず、優勝に向けた良い流れを活かすことが出来ずに逆にコメディイタに44秒差をつけられる苦しい展開となりました。

その後、先頭から大きく離されて流れが変わると、11月に初のフルマラソンを走った4区の松谷、前日の日体大記録会1万mで自己ベストをマークした小原ともに凡走となり、先頭のコメディイタに気持ち良くトップを独走される展開で、気付けば6区の渡辺にタスキが渡った時点でトップのコメディイタには3分3秒まで差を広げられていました。

それでもアンカーの渡辺は先頭のコメディイタを追い、区間2位の走りで青梅市役所前のゴールに飛び込みました。



4区 松谷選手



5区 小原選手



6区 渡辺選手

《総括》

結果、優勝したコモディイタとは3分30秒差の2位となり、優勝はなりませんでしたが。今回の駅伝についても、従来からの課題である中盤以降の単独走の際に1人でレースを組み立てられない弱さが出てしまい、今後はこの課題克服に重点を置いて、来年1月の奥むさし駅伝、2月の埼玉県駅伝には再起を図れる様、引き続き継続した活動に邁進致します。

最後になりますが、今大会におきましても早朝より現地まで応援に駆けつけて頂きました大勢の皆様にご場をお借りして厚く御礼申し上げます。

以上